

「DV にさらされる子どもたち～加害者としての親が家族機能に及ぼす影響」

—by ランディ・バンクロフト他 （金剛出版）より

DV にさらされる子どもへの影響

- a. 「子どもにとって両親の関係にまつわるもっとも気がかりな出来事は、父親の母親に対する暴力だという。DV にさらされる子どもは…仲間に対して…攻撃的な態度をとりやすく、…問題行動が多」く、「友人関係に問題があるなどの特徴がある」(p.45)
- b. 「精神健康面でさまざまな悪影響がみられ、問題行動、多動、不安、自分の殻に閉じこもる、学習困難などの比率が著しく高」く、「母親を守ろうとし、暴力をふるわれている親を守るために、争いに割って入ることもある。」(p.45)
- c. 「こうした影響は内面化され、長期的な結果をもたらす」たとえば「罪悪感」(p.45)
- d. 「母親に対する心理的虐待の程度や性質は、子どもの苦痛の度合いを大きく左右する要因で」「母親に対する言葉による虐待がひどければひどいほど、その男の子が成長した時に暴力をふるう比率は高くなる」。(p.46)

外傷性の絆

- e. 「意図的な虐待—なかでも、脅しとやさしさが交互に現れる虐待—は、きわめて強力かつ不健全な絆を形成し、被害者の加害者への強い依存を助長することがある。」これは、「虐待関連のトラウマにみられる一般的な反応である」(p.47)
- f. 「子どもは暴力を目撃しているうちに、加害者と密接な関係を保てば自分の身が相対的に安全であることに気づく。」(p.48)
- g. 「加害者の側に立つことで時として著しい心理的葛藤を覚え、母親に対する加害者の歪んだ見方に同化することによって葛藤を緩和しようとする。その結果、母子関係は大きく損なわれ、重大な影響が生じる」(p.48)
- h. 「加害者との間に外傷性の絆が生じると、子どもは「虐待する大人の要求や欲望、感情の起伏」にますます敏感になり、「自分の身の安全を守るために精一杯の努力をする。」(p.48)

DV にさらされる子どもの抵抗力

- i. 「どんなトラウマ経験であっても、それに対する子どもの抵抗力は、良い親あるいは親に代わる存在がまわりにいるかどうかにかかっている。DV にさらされる子どもの場合、母親との関係が鍵を握るケースがほとんどである。」 (p.48)
- j. 「子どもが回復能力をもつことは十分証明されており、何より重要なのは、加害者が子どもの回復力を減じるような行動をとっていないかに注意を払うことである。」 (p.48)

児童虐待

- k. 「DV 加害者が子どもに身体的暴力をふるう可能性は、暴力をふるわない男性に比べて数倍も高いということは、多くの研究で示されている。」 (p.49)
- l. 「6,000 人以上の被験者を対象にしたストラウスの大規模な研究で」は、「身体的虐待に、子どもに「頻繁に」暴力をふるうという厳格な定義を採用している。」「DV 加害者の 49% が子どもに身体的虐待を加えるのに対し、暴力をふるわない男性の場合はずか 7% である。」 (p.49)
- m. ボーカー他、「加害者の 70% が子どもを身体的に虐待しているという結果を得た。」
- n. 「加害者が子どもを身体的に虐待するリスクは、パートナーに対する暴力の激しさや頻度に応じて高くなる。」 (p.49)
- o. 「したがって子どもが身体的虐待を受けるリスクを評価する際には、DV のくわしい前歴を知ることが重要である。」 (p.49)
- p. 「加害者が子どもを殺害する危険もある。」「DV 関連の殺人の 8 件に 1 件以上の割合で、1 人あるいはそれ以上の子どもが殺害されている。」 (p.50)
- q. 「別居後に虐待が少なくなると考えられる理由はまったくない。」「子どもを通して被害者を脅迫しようとする動機は、別居後むしろ強くなる。」「相手を支配する手段がほかになくなるからである。そのうえ、加害者の行動を監視するパートナーの目ももはや存在しない。」 (p.50)
- r. 「母親に対して暴力をふるうときに偶然、あるいは不注意のために子どもに危害が及ぶ可能性もある。」 (p.50)
- s. 「妊婦への暴力はめずらしくない。」 (p.50)
- t. 「母親に暴力をふるうこと自体が、子どもへの心理的虐待になる。」 (p.51)

- u. 「母親に対する加害者の行動が子どもへの接し方を予想する重要な目安となることは、研究結果からも臨床結果からも明らかである。」 (p.52)
- v. 「暴力をふるう父親に対する子どもには、アンビバレンスが特徴的にみられる。」 (p.56)
- w. 「加害者の娘が父親による近親姦の被害を受ける割合が、そうでない場合の 6.5 倍に上る」 (p.83)
- x. 「性的虐待を行う DV 加害者にきわだっているのは、…強い特権意識、子どもに自分の要求を満たさせようとする自己中心的な期待（役割逆転）、高度な心理操作、子どもを所有物とみなす、といった特徴である。」 (p.85)